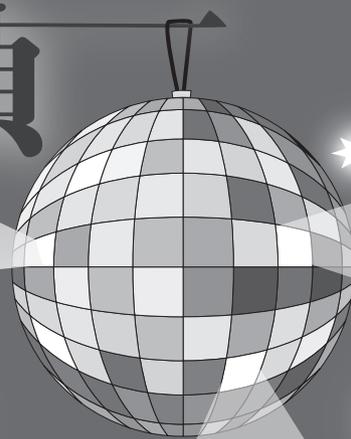


ディスコ探偵 水曜日



奇想天外なトリックの数々に緻密な伏線、続きが気になってページをめくる手を止められない。そんな小説に出会ったとき、一体作者の頭の中はどうなっているのだろうか、と考えてしまうことはないだろうか。今回は、読者にそんな戸惑いを与える作家の一人、舞城王太郎の長編小説『ディスコ探偵水曜日』を紹介する。

本作の主人公は、アメリカ人の迷子捜し専門探偵、ディスコ・ウェンズデイ。以前に事件で関わった6歳の少女、山岸梢を引き取って日本で生活している。ある日、梢の身体の中に17歳の梢が「侵入」してきたことをきっかけに、彼らの平穏な日常は姿を変える。梢の身体に、魂に、何が起きているのか調査を始めたディスコがたどり着いたのは、福井県のとあるミステリー作家の館。その家主の不審死の真相、名探偵たちの相次ぐ自死、同時発生している魂泥棒事件、目覚めない子供たち、それらの謎がすべて絡み合い、事態は混迷を極める――。

本作の魅力の一つは、惜しみなく展開される推理にある。ミステリー作家の不審死の真相を明らかにするために何人もの名探偵たちが集い、次々と華麗な推理を披露していく。それらは完璧に思えるほど緻密なものなのに、語り終えられた後で必ず誤りであることを示す事実が見つかる。その様はまるで、真実が逃げていくかのよう。息もつかせぬ展開に、読者は手に汗握ることとなる。

物語を綴る文体にもまた、独特の魅力がある。勢いのある、まるで思いついたことをそのまま書き綴っているかのような文体が生み出すテンポにつられて、時に難解な内容にもかかわらず、すんなりと読めてしまう。その筋書きは次第に、残酷な物語を紡いでいくこととなる。だからこそ、決して諦めないハードボイルドなディスコの姿が鮮明に描き出されるのだ。

——ジャスト・ファクツ！ 梢のことだけ考えろ！

奔走するディスコが見出した、事件の、世界の真実とは――。ぜひ、ディスコと共に最後まで駆け抜けてみてほしい。

ディスコ探偵水曜日（上・中・下）



著者：舞城王太郎
出版：新潮社
定価：上 590円
中 670円
下 720円
(いずれも税別)



はみだし
すてーじ

もう4回生かあ…。
⇒もう3回生かあ……。

(理・3 トトロ)
(進級できるってすばらしいですね！；編)